

飲酒運転が悪質かつ危険な行為であることは県民だれもが理解していることではありますが、それでも悲惨な事故が後を絶たないのは、「自分だけは大丈夫」といった根拠のない過信や、「自分は酒に強く酔っていない」といった誤った判断、さらには多量飲酒やアルコール依存の問題等も指摘されております。

飲酒運転の根絶は、沖縄県の重要課題のひとつではありますが、警察の取締り強化や法律の厳罰化には一定の限度があるため、県民を挙げての対策が強く求められているところであります。

県警察では、県民一人ひとりが飲酒運転問題を自らの課題としてともに考え、ともに行動するためのきっかけになることを願って、この度、「一杯の代償」く悲しみと後悔のメッセージを発刊しました。

このメッセージ集は、飲酒運転にかかわった当事者をはじめその家族や友人等が、自ら体験した悲しみや苦労を決して他の人に味わって欲しくないとの思いで心情を書きつづったものです。

県民の皆様が飲酒運転問題を考える上での一助になれば幸いです。

平成二十一年四月

留置場、鑑別所で私が学んだこと	19
自分は大丈夫とは思わないで	20
アルコール依存症と診断されて	21
飲酒をコントロールできない方へ	23
飲酒運転の懲りなかった私	24
アルコール依存症と飲酒運転	25
常習飲酒運転者に思うこと	26
規範意識のなさが一番問題	27
飲酒運転根絶を目指して	28
飲酒運転事故の被害者を救済するために	29
アルコールの与える影響	30
飲酒運転根絶にむけての活動	31
飲酒絡み交通事故の推移	35
平成二十一年度 交通安全年間スローガン	36